

「白川村の蔵」開業に向けて修業を積む大倉さん＝飛驒市古川町で



蔵人 大倉 慎也さん(44)

① 古里の求人でUターン

「いつかは戻らないといけない」と思っていた。しかし、40代になるまで故郷には帰らなかった。理由は「仕事がない」。地元に仕事がないから。そこで現れたのが、白川村が新たな産業基盤として誘致した酒蔵で働く選抜肢だった。

大倉慎也さん(44)は白川村平瀬地区出身。「一度は都会に」という思いもあり、高校進学を機に岐阜市へ出た後、名古屋市内の大学に進んだ。卒業後は愛知県で、旅客機の主翼の製造や自動車関係などさまざまな職場で働いた。

3きょうだいの長男で、2人の妹は結婚を機に村を離れた。いずれは戻って親の面倒を見ないといけない。そんな思いは、ずっと心のどこかにあった。もともと地元が嫌いだったわけではない。世界遺産になるような合掌造り集落があり、自然が豊かないいところ。その思いは村を離れ強めることは多岐にわた

まちを紡ぐ 過疎のフロンティア

活性化の一員になれば

第1部



都市部と地方の二極化が進み、今や全国の市町村の過半数が「過疎地域」に指定されています。中でも人口減が激しい飛驒地域は、見方を変えれば時代の一步先を行く「開拓者」。

本紙飛驒版では通年連載「まちを紡ぐ 過疎のフロンティア」を展開し、第一部は「仕事」に焦点を当てた「飛驒ではたらく」(全5回)をお送りします。この地で前向きに暮らす人々の姿が、この国の未来を明るく照らすと信じて。

「自分も消えなかった。ただ、自営業が多い村では「サラリーマン」として働ける場所が少ない」。仕事のない場所へ戻る選肢は、現実的ではなかった。

転機は、昨年のゴールデンウィークの帰省だった。

白川村鳩合の旧白川小学校跡地で整備が進む酒蔵「白川村の蔵」の求人を知り「これだ」と直感した。村と渡辺酒造店(飛驒市)が新たな特産品の開発や雇用創出を目指し、共同で開業を目指すプロジェクト。村

内産の酒米を使い、製造から販売まで村の中で行う。昨年夏に募集を行い、初めに大倉さんも含めた2人が蔵人として採用された。

2027年春の開業に向け、昨年10月から飛驒市の渡辺酒造店で清酒づくりを一から学んでいる。元々、お酒が特別好きだったわけではない。まさか酒蔵で働くことになるとは。酒米を蒸すところから発酵まで、勉強することは多岐にわた

「にぎやか」に新たな価値を

人々の営みが薄れゆく。そう実感するようになったのは、いつのことだろう。まちに響く子どもの声。青々とした農作物がなる田畑。大切に守り継がれてきたものが、少しずつだが着実に失われていく。過疎はもう止められなくなった。

世界をリードするほどの戦後復興を遂げた高度経済成長期、空前の好況に熱狂したバブル景気の陰で、地方の人口減少は始まっていた。指折りの観光地として、人々の心をつかんできた飛驒地域も例外ではない。

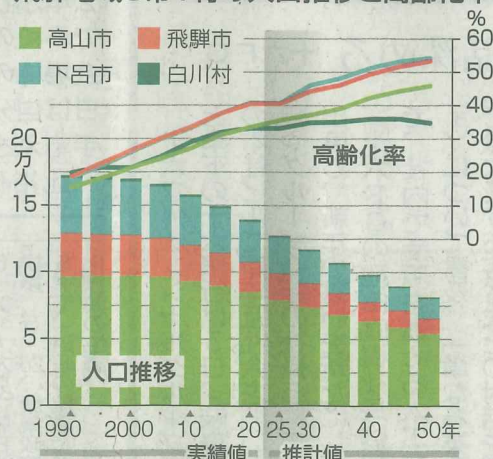
国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、3市1村の人口は2020年に約13万9千人いたが、50年には約8万1千人(41.6%減)まで減るとされる。国内総人口は30年間で17%減と

見込まれ、この地の深刻な状況がうかがえる。

明治大の小田切徳美教授(農村政策論)は、地域の存続に「住民の諦め」が大きく影響するとみる。社会に衝撃を与えた「地方消滅論」のように住民の危機感をあおる「北風路線」ではなく、地域の可能性を共有し、当事者意識を持った人材を育む「太陽路線」に希望があると説く。「住民や関係人口、移住者らがごちゃまぜになり、新しい価値をつくる『にぎやかな過疎』に未来はある」かつて世界が経験したことのない人口減少社会と正面から向き合い、地域全体で知恵を絞れば困難にも適応できるはず。ここには、人口という数字では言い表せない「ひと」がいる。

(坂本圭佑)

飛驒地域3市1村の人口推移と高齢化率



※2020年までは「国勢調査」、25年以降は国立社会保障・人口問題研究所の「地域別将来推計人口」による

り、力仕事も多いが「少しずつ慣れてきた」と前を向く。

「中学生の頃は、こころで観光客はいなかった。ふるさととは、いつの間にか年間200万人以上が訪れる世界的な観光地に。一方で、1960年に1万人近かった人口は現在では1400人ほどまでに減った。合掌造り集落の南部に位置する実家周辺は「昔あった家が壊されていたり、無人にな



午年(1)
無所属 高井常
(関市下有知)

高山支局
〒506-0005
高山市七日町2-192-2
0577(32)0350
Fax(34)5215
萩原通信局
0576(52)1025
Fax(53)0006
飛驒通信部
0577(73)6701
Fax(73)6738

ペット供養 人形供養

令和8年1月11日(日) 午前11時
初祈願祭を執り行います

動物供養寺
三仙院

フリーダイヤル 0120-3000-37
https://sanzenin.jp
土岐プレミアムアウトレット近く
国道19号沿い